

公益社団法人大阪狭山市シルバー人材センター
令和5年度 事業報告

新型コロナウイルスによる感染が世界規模で広がった令和2年から、令和5年5月8日には感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザと同じ「5類相当」に移行もされ、今年で5年目を迎えることとなります。

この間、全国的にシルバー人材センターの会員数は減少し、令和元年12月末と比較すると35,230人、約4.8%も減少しています。

全体的に見ると減少幅は年々縮まり、緩やかに上昇カーブを描いておりますが、その主な要因となるのは、女性会員数が令和元年度から令和5年度において約5割程度改善の傾向もあり、コロナ禍前の状態に徐々にではありますが、回復していくための兆しが見られるようになってきました。

当センターにおいてもこのような状況を踏まえ、シルバー人材センターに対する地域の期待に添えていくため、安全就業を基本として、会員の拡大と普及啓発活動を推進し、合わせて、地域のコミュニティづくりに努めるとともに、就業機会の拡大をすすめ、高齢者が健康で生きがいをもって、第2の人生を送れるよう取り組みを進めました。

以下、令和5年度の事業の実施状況について報告いたします。

事業の実施状況

1. 会員の拡大と普及啓発活動の推進

- (1) 入会説明会を毎月開催し、新規会員の拡大に努めました。
- (2) 普及啓発として、市内の主要駅や大型店舗での街頭啓発、大阪狭山市主催の各種イベントでの当センターのPRを行うとともに、大阪狭山郵便局でのデジタルサイネージによる情報発信や、市内の全戸建て住居へのポスティングによる会員募集の啓発活動を行いました。
- (3) 広報委員会で会報誌を発行するとともに、会報誌等をより多くの市民に読んでもらえるよう、市内の公共施設などに会報誌やパンフレットを配架し、また市の広報誌にもパンフレットを折込配布しました。
- (4) 会員一人ひとりが啓発担当となり、「1会員1名の会員勧誘」を目標に会員の拡大に努めました。
- (5) 道路清掃などのボランティア活動を積極的に行い、地域への社会貢献に努めました。
- (6) 会員同士が自主的に活動している同好会の活動報告等について、ホームページや会報誌を活用してPRし、多くの仲間づくりに努めました。
- (7) 市の広報誌に当センターの関連記事を定期的に掲載し、広く市民にシルバー人材センター事業の周知啓発を行い、理解を深めました。

2. 就業機会の確保と適正就業の推進

- (1) 会員一人ひとりがセンターの広報担当として、口コミによる就業開拓

- 活動を推進し、新規の就業確保に努めました。
- (2) 就業基準に関する要綱に基づき、会員に公平な就業機会の提供を図り、未就業会員の解消に努めました。
 - (3) シルバー派遣事業を推進するため、就業開拓を積極的に行うとともに希望する会員に対し各種情報の提供、就業機会の拡大に努めました。

3. 安全就業と健康管理の推進

- (1) 安全委員会で事故の原因分析を行い、事故の再発防止に努めるとともに、会報誌を活用し、安全就業や健康管理の啓発に努めました。
- (2) 安全委員や安全就業推進員による就業先への安全パトロールを毎月実施し、就業現場の安全指導に努めました。また、新規受注にあたっては、事前に就業環境を把握し、安全確保に努めました。
- (3) 会員から公募した安全標語を会報誌へ掲載し、また、傷害事故や賠償事故の実例等を会員に周知するとともに、事務所内にも掲出することにより、安全就業の意識について一層の啓発に努めました。
- (4) 就業中の事故や就業途上の事故防止、また健康維持を図るため、救命救急、フレイル予防等に関する安全講習会を開催し、入会説明会においても安全就業の重要性を十分説明し、安全意識の高揚に努めました。
- (5) 会員の健康管理について、認識を深めるため、会報誌を通じて定期的な健康診断の受診勧奨と健康に関する情報を掲載しました。

4. 研修・講習会の実施

- (1) 高齢者活躍人材確保事業を活用し、専門的分野の講習を実施し、会員のスキルアップを図り、後継者育成に努めるとともに、新規就業開拓にも努めました。
- (2) 派遣会員について、キャリアアップに資する教育研修を実施し、接遇の向上や個人のキャリアアップに努めました。

5. その他

- (1) 事務局職員の資質の向上を図るため、関係機関等主催の各種研修会へ積極的に参加し、他市センターとの情報交換を図り、当センターの発展に努めました。
- (2) 会員同士の親睦を図るため個々の趣味を生かした活動を行えるよう、会報誌等でPRに努めました。
- (3) 会員の知識、技術の習得する場や、受注した仕事の作業場及び会議の場としてワークプラザを有効活用するとともに、会員の活動拠点としても積極的に活用しました。
- (4) インボイス制度（適格請求書等保存方式）が導入されたことから、適正な経理事務の処理を行い、当センターの健全な運営に努めました。